



歴史街道  
REKISHI KADO

重要伝統的建造物群保存地区

なら  
かしはら

# 今井町

かつて「大和の金は今井に七分」といわれるほど繁栄した町  
現在も、五百軒もの町家が連なります。

## 重要伝統的建造物群保存地区とは

昭和50年の文化財保護法の改正によって、伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存しようとする制度です。  
今井町は、寺内町として、平成5年12月8日に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

## 今井町の歴史

今井の地名は至徳・元中三年(1386)の興福寺一乗院の文書にみえますが、今井町の成立は戦国の世、天文年間(1532~1555)この地に向宗本願寺坊主の今井兵部卿豊寿によって寺内町が建設されたことに発します。一向宗の門徒が、都市計画に基づき今井に御坊(称念寺)を開き、自衛上武力を養い、濠をめぐらしました。永禄十一年(1568)織田信長が、足利義昭を擁して上洛以来、本願寺は反信長の旗を立て、今井もそれに呼応し、寺を中

心とした城塞都市の形態を整え、抵抗しましたが、天正三年(1575)明智光秀を通じて信長に降服し、事なきを得ました。かくして信長から赦免の朱印状が今井郷に下され、「万事大坂同前」として自治特権を許されました。その後、大坂や堺などとも交流がさかんになり商業都市として変貌をとり、江戸時代には南大和最大の在郷町となって、今井札(銀札)を発行するまでに栄えました。

## 今井町の町並み

称念寺を中心とした寺内町今井は、江戸時代初期の概略では、東西約600m、南北約310m、周囲には環濠土居を築いた戸数1,100軒、人口約4,000数百人を擁する財力豊かな町でした。町割は西、南、東、北、新、今の六町に分かれ、9つの門からは木橋を渡って濠を渡り、外部の道路と連絡しています。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させてあります。これは、敵の侵入に備えて、その遠見、見通し、弓矢・鉄砲の射通しを不可能に

するためでした。これらは当初、軍事目的のためにつくられたものですが、江戸時代中頃は富裕な商人の生命、財産等を外部から守るというものに変貌しました。

現在も、今井町の大半の民家が江戸時代以来の伝統様式を保っており、慶安3年(1650)の今西家をはじめとして、美しい民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせています。

# 今井町

重要伝統的建造物群  
保存地区

戦国時代に織田信長と戦ったまち今井町  
そこでは歴史ある町並みを散策できます。

## 凡例

- 環濠復元
- 環濠跡
- 伝統的建造物
- A~I 重要文化財
- J~L 県指定文化財
- M~Q 市指定文化財
- 重要伝統的建造物群保存地区
- トイレ
- Free Wi-Fi
- 銀行
- 旧町名の案内標示板



### A 今西家住宅

☎0744-25-3388

重要文化財 事前連絡要 見学有料

今井町の西端にあり、惣年寄の筆頭をつとめていた家です。慶安3年(1650)に再建された民家ですが、城郭のような構造で別名「八つ棟造り」とよばれている豪壮な建物です。

[昭和32年6月18日指定]



### B 豊田家住宅

非公開

重要文化財

旧は材木商「西の木屋」牧村家の所有で、幕末には大名貸しを行い藩の蔵元等をつとめていた豪商です。建物は寛文2年(1662)に建設されたもので、今西家住宅と並び今井町における上層町家の好例です。

[昭和47年5月15日指定]



### C 中橋家住宅

☎0744-22-7288

重要文化財

見学有料

称念寺の筋向かいにあり、屋号を「米彦」といい江戸時代は米屋を営んでいました。主屋は、18世紀後半頃に建てられた平屋建の町家でしたが19世紀初頭頃、正面通りに「厨子(つし)二階」が増築されました。

[昭和47年5月15日指定]



### D 上田家住宅

☎0744-23-5457

重要文化財

事前連絡要 見学無料

今西家・尾崎家と並び惣年寄をつとめていました。主屋は祈禱札から延享元年(1744)頃の建築とみられます。入口を西側に設け屋根も他家と異なります。内部は惣年寄の特権からか装飾的な要素が多いです。

[昭和47年5月15日指定]



## 施設関係一覧表

(市外局番 0744)

1	今井まちなみ交流センター「華蔵」(旧高市郡教育博物館)	☎24-8719・☎24-8719
2	今井町観光情報館(日本の寺子屋)	☎48-0805 水曜休
3	今井まちや館	☎22-1287
4	今井町並保存整備事務所	☎29-7815・☎24-9712 土日祝休
5	今井景観支援センター	
6	今井つどい館もより(資料展示)	
7	中町筋生活広場(防災小屋・防火水槽)	
8	南町筋生活広場(南口門・防火水槽)	
9	旧西町生活広場(防火水槽)	
10	旧北町生活広場(防災小屋・防火水槽)	
11	今井西環濠広場(今井都市緑地)	
12	今井第二都市緑地	
13	今井児童公園(防火水槽)	
14	北環濠小公園(防火水槽)	
15	今井蘇武橋公園	
16	今井まちや館 別館(貸館)	
17	今井まちづくりセンター(貸館)	

歴代の豊田家当主が収集した江戸時代中期から明治時代初期の書画、骨董、陶器、古美術品と商家当時の生活を偲ぶ生活用品を展示しています。毎年春・秋期前に展示品を入れ替えており、今井町の歴史を細やかに知ることができます。

紙半 豊田記念館 見学有料  
TEL.0744-24-0348 ⑥年末年始 ⑦無料

至南阪奈道路

24

市指定文化財

M	旧常福寺観音堂	(昭和51年12月1日指定)
N	称念寺太鼓楼	(平成6年11月7日指定)
O	称念寺庫裡・客殿・対面所	(平成10年3月20日指定)
P	順明寺表門	(平成6年11月7日指定)
Q	旧常福寺表門	(平成6年11月7日指定)

[平成2年3月9日指定]

L 旧高市郡教育博物館

見学無料 = 今井まちなみ交流センター「華蔵」

明治36年(1903)に建てられた社会教育施設です。昭和4年より今井町役場として長く使用されていました。修理にあたり旧状に復元し、今井まちなみ交流センター「華蔵」として再生しました。

# 赤い橋の蘇武橋を渡ると



**今井町観光情報館**  
(日本の寺子屋)  
TEL.0744-48-0805

**蘇武橋のエノキ**  
(橿原市景観重要樹木 第1号)

この橋が目印!  
橋を渡れば  
今井町だよ

今井の来訪は  
はな いろいろ  
**華薨**を見学  
してから  
さあ、出かけよう!

**今井まちなみ交流センター「華薨」**  
見学無料  
TEL.0744-24-8719

**E 音村家住宅**  
☎0744-23-0089

重要文化財 事前連絡要 見学有料

「細九」の屋号で金物問屋を営んでいた。17世紀後半頃主屋を建て、後主屋西北部に「角座敷(つのだしき)」を増築し、19世紀中頃、西側に座敷が追加されました。当家は時代の情勢にあわせて逐次増築されているのが特徴です。

[昭和47年5月15日指定]

**F 旧米谷家住宅**  
☎0744-23-8297

重要文化財 見学無料

「米忠」の屋号をもち、広く金物商を営んでいました。18世紀中頃の建物で、後に、内蔵や蔵前座敷を増築しました。主屋は他家と異なり、5室型で農家風のイメージが強い建物です。

[昭和47年5月15日指定]

**G 河合家住宅**  
☎0744-22-2154

重要文化財 見学無料 一部非公開

江戸時代初期頃、上品寺村から移住し、古くより「上品寺屋」の屋号で酒造業を営んでいます。18世紀中頃に建てられた早い時期の二階建町家で二階に座敷等が設けられており、豪商の片鱗がうかがえる建物です。

[昭和51年5月20日指定]

**H 高木家住宅**  
☎0744-22-3380

重要文化財 見学有料

19世紀初頭頃、「四条屋」から分家し「大東の四条屋」の屋号で、酒造業等を営んでいました。発達した二階建て、一階、二階共2列6室型の部屋となっています。また正面通りの格子の精彩さ等、幕末期の上層町家の好例です。

[昭和47年5月15日指定]

**I 称念寺本堂**(浄土真宗本願寺派)  
☎0744-22-5509

重要文化財

今井町は、称念寺を中心に発達した「寺内町」です。建物は、江戸時代初期に再建された大規模な浄土真宗本堂です。後の改修はありますが、当初の特徴をよく残した建物です。

[平成14年5月23日指定]

**K 山尾家住宅**  
非公開  
今井まち衆博物館

八代将軍徳川吉宗の時代、巡見使の本陣となり、木戸孝允(桂小五郎)も投宿した大商家で、幕末には町年寄をつとめました。広い敷地に数多くの建物を配置し、水琴窟や紅梅がある庭も当時の状態で残されています。

[昭和60年3月15日指定]

**J 旧上田家住宅**  
非公開

旧は上田家で、「垂八」の屋号をもち、肥料商その他の商いをしていました。主屋は文化2年(1805)の再建ですが、他の建物は約50年程遅ります。当家は狭い敷地に多くの建物を配置し、一般商家の屋敷構えを知ることができます。

[昭和56年3月17日指定]

見学 社会情勢や居住者の都合等により見学できない場合もあります。 ○団体は予約が必要です ○施設によっては有料となる場合があります

# 守られてきた伝統を今に伝える



## もっと今井



### 旧米谷家住宅

【内部見学無料】

TEL0744-23-8297

※年末年始休館

中町筋北側に面し、切妻造、本瓦葺き、平入りで立ちの低い町家です。内部は東側に通り土間、土間の隅はしもみせを取り、居室は珍しく五間取りです。裏庭に建つ土蔵は、数寄屋風の蔵前座敷を付属しています。旧米谷家は、今井町には珍しい広い土間、煙返しなど、農家風民家のイメージが強い建物です。



# 奇跡の町 今井町



全国最大規模の重要伝統的建造物群保存地区「今井町」は、その町並みを構成するすべてが見どころです。「日本に今井町が残っていて良かった。」今井町を訪れたあなたはきっとそう思うことでしょう。今井町の魅力を心ゆくまで感じてください。



## 町を知ろう

### 今井まちや館

【内部見学無料】

TEL0744-22-1287

※年末年始休館

本町筋の中央部にあり、18世紀初期頃の町家ですが、明治以降は、空家の期間も長く破損も甚だしい状況になっていました。調査の結果、今井町の大型町家の基本平面を持っている貴重な建物であることが判明し、痕跡資料にもとづき古材再利用、耐震、防火施設の充実をはかり当初の姿に復元しました。文化財指定民家にも劣らない建物で江戸時代中頃の雰囲気を味わっていただくことができます。



### 今井まちなみ

交流センター（はないらか）（華菱）

【内部見学無料】

TEL0744-24-8719

※年末年始休館

明治36年(1903)高市郡教育博物館として建設され、昭和4年から今井町役場として使用されてきました。当時、奈良県の社会教育施設としては、奈良公園に造られた「帝国博物館(現 奈良国立博物館)」に次ぐものでした。現在は、今井町の歴史を詳しく解説する資料館として、公開しています。

# 八木町

長い時を越えて  
今も残るかつての風情

小さなエリアの中に風情あふれる光景  
ぎっしり詰まった町並みを楽しむ。

## A 奈良県立畝傍高等学校

**登録有形文化財** 非公開  
昭和8年(1933)奈良県立畝傍中学校舎として竣工。中央に塔を配した寺院を模した意匠が特徴。戦時下、海軍経理学校に接収され米軍機の機銃掃射を受けました。設計者は岩崎平太郎。



## B JR畝傍駅

明治26年(1893)に神武天皇陵参拝のため誕生しました。現在の駅舎は昭和15年の紀元2600年祭式典に合わせて造られ、橿原神宮と同じ総白木造が特徴です。皇室の休憩用として重厚な雰囲気がある貴賓室(非公開)も設けられています。



## C ジュールフェリエ (旧六十八銀行八木支店)

**登録有形文化財** 現在はレストランとして営業中  
昭和3年(1928)に旧六十八銀行八木支店として竣工。元奈良県技師・舟橋俊一的设计で、イオニア式の円柱を配するルネサンス風の造りが特徴です。奈良県南部に現存する最古の鉄筋コンクリート造りの一つです。



## D 八木基督教会

**要問合せ ☎0744-22-3584**  
昭和11年(1936)に竣工された教会建築で、東側の妻壁にはロマネスク風の半円アーチ三連を持つ出窓があります。また、内部は和洋の混在を機能的にうまく処理したダイナミックで豊かな空間が広がっています。



**橿原市観光交流センター**  
(かしはらナビプラザ)  
年中無休  
9時から19時  
TEL.0744-47-2270

## 11 浄土宗 大和國分寺

**☎0744-22-3030**  
十一面観音立像 見学事前連絡要  
本尊は阿弥陀如来坐像で、観音・勢至両菩薩坐像が両側に配されています。本堂横の収蔵庫には、国指定重要文化財である木造十一面観音立像が安置されています。この観音立像は像高177.5cmあり、櫛の一本造りで臍(まなじり)の吊り上った表情や膝下の翻波式衣文(ほんばしきえもん)などから、10世紀末から11世紀のころの作と考えられています。



## 10 岡本家住宅

**登録有形文化財** 非公開  
岡本家は、明治期から昭和中期まで当地で呉服・反物の卸業を営み、主屋は店舗兼住宅として使用されていました。内外を良材で丁寧に仕上げるとともに、中廊下型の平面や小屋組のトラス使用に先進性が認められています。



## 9 おふさ (高野山真言)

**☎0744-22-3584**  
土地の娘「おふさ」さんがこたのが起源だともいわれて、には約3,800種類のバラが優



**凡例**

- 伝統的な町家
- 近代建築
- 案内板・説明板
- 碑
- 古代の幹線道路
- 環濠跡

### 散策コース

近鉄大和八木駅▶恵比須神社▶河合家住宅・河合源七郎家住宅▶芭蕉句碑▶八木札の辻交流館▶谷三山生家▶福島家住宅▶畝傍高校▶春日神社▶おふさ観音▶飛鳥川沿い▶今井町へ



芭蕉句碑



春日神社



至藤原宮跡

正明寺

前部重厚頌徳碑

おふさ観音

谷三山坐像

神道橋

大願寺

八幡神社

公園

飛鳥川

願専寺

県立医科大学

県立医大  
附属病院

至 榑原宮  
吉野

榑原警察署

平成記念病院



## 1 八木札の辻交流館

登録有形文化財 ☎0744-26-2684  
見学無料  
18世紀後半～19世紀前半頃に建てられたと考えられているかつての旅籠です。1階は接客と主人の居室、2階が宿泊施設として利用されてきました。改修を行い、平成24年7月から現施設として一般公開しています。



## 2 西の平田家住宅

非公開  
近世には「きわらや」という屋号で、旅籠としてにぎわっていました。二階への大階段もそのまま残っています。



## 3 河合源七郎家住宅

登録有形文化財 非公開  
初代河合源七郎によって、明治20年代後半に町屋として主屋を建築、さらに大正時代に、離れ座敷や茶室が増築されました。平成21年に登録有形文化財に登録されています。



## 4 河合家住宅

登録有形文化財 非公開  
天保13年(1842年)、八代目の河合庄九郎の頃に「絞り油屋」を営んでおり、建物自体があったと推測されています。平成21年に登録有形文化財に登録されています。



## 8 延命院八木寺

☎0744-23-2261  
榑井市の長谷寺を開山した徳道上人によって天平時代に建てられた八木寺の後身寺院。本尊の十一面観世音菩薩は、長谷寺の本尊と同じ霊木から彫り出されたと伝わり、「福寿観音」と呼ばれています。



## 7 恵比須神社

創立年代は明らかではないが、江戸時代初期頃には既に祀られていたといわれています。河瀬直美監督の第64回カンヌ国際映画祭正式招待作品「朱花の月」撮影のロケ地でもあります。



## 6 福島家住宅

非公開  
高取藩の下屋敷として、参勤交代の起点となった家で御殿部屋が残っています。享保10年(1725)の棟札があります。



## 5 谷三山生家

非公開  
幼い頃に聴力を失いながらも、私塾「興譲館」を開き多くの門下生を排出した幕末の儒学者・谷三山の生家で、吉田松陰等、諸国の名士が来訪しました。



## お観音

宗別格本山観音寺)  
22-2212  
の地で観音様を祀っています。毎年、春と秋に雅に咲き誇ります。





歴史街道  
REKISHI KENDO

ならかしはら

# 八木町

かつての賑わいの象徴「八木町」

郷愁にも似た、

安らぎに包まれる街を歩く

## 日本遺産認定

平成29年4月に「1400年に渡る悠久の歴史を伝える『最古の官道』～竹内街道・横大路(大道)～」が日本遺産に認定されました。  
構成遺産：横大路・下ツ道・中ツ道・八木札の辻・大御神宮灯籠・今井町・おぼろ観音・藤原宮跡・香具山・本薬師寺跡

## 八木町の歴史

古代、政治の中心地であった奈良盆地には、早くから多くの幹線道路が整備されていました。都から大陸への玄関港である難波の津を結んでいた横大路、大和から今の和歌山市に至る紀路などです。藤原京から北に向かっては、中ツ道、下ツ道と呼ばれる道路が存在しており、八木の町はその横大路と下ツ道の交差点を中心に生まれ、中世には既に町を形成していたといわれています。江戸時代になると、横大路を含む河内から伊勢に通じる道は「伊

勢街道」や「初瀬街道」と呼ばれ、また、下ツ道は「中街道」と称されるようになり、北は奈良を越えて山城に達し、南は吉野・紀伊方面に通じており、この2つの街道交差点である「八木札の辻」は、お伊勢参りや大峯山への参詣巡礼などで大いに賑わいました。当時の姿は江戸時代に出版された「西国名所図会」にもいきいきと写し出されています。また、松尾芭蕉や本居宣長、吉田松陰といった歴史上の著名な人物もこの地に足跡を残しています。

## 八木町の町並み

八木町には、文化的に貴重な建物をはじめ伝統的な町家が約300軒も残っています。その一方で近代的な歴史的建造物も数多く存在し、中でも畝傍高校校舎や旧六十八銀行等は登録有形文化財に登録されています。町を巡れば、通りの表・路地裏のいたるところで、時代を帯びた商家の看板、人々が

集った井戸、昔ながらの銭湯、懐かしい小鳥屋・茶葉屋といったノスタルジックなシーンに出会うことができます。この町を訪れた誰もがタイムスリップしたかのような不思議な既視感、郷愁にも似たある種の落ち着いた気分に包まれる、そんなひとときを過ごせる空間が広がっています。

お問合せ

橿原市観光政策課 〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号 TEL0744-21-1115  
(一社)橿原市観光協会 〒634-0812 奈良県橿原市今井町2丁目3番5号 TEL0744-20-1123

2023年6月発行